



CLE 准教授 鄭 鍾熙

・ 専門分野 :

言語学、外国語教育

・ 科目 :

AP 言語 (韓国語 I ~ IV)、
AP イメージングプログラム、
FIRST Program、MCW

2021年10月時点

Tips

1. 学習者自身がカスタマイズできる柔軟な授業を実現する
2. 「学びのエキスパート」を育てる
3. 「考える人」を育てる

Q:先生の授業で、学生の学びの質を高めるために、どのような工夫をされていますか？

A:「学びのユニバーサルデザイン (Universal Design for Learning、以下UDL)」に基づいた授業を実践しています。**UDLは、脳科学の洞察に基づいて考案された「すべての人々の学びを最適化するためのフレームワーク」です。**当然なことですが、人はみんな違います。学習においても得意なこと、苦手なことがそれぞれあるわけです。言語クラスを例に挙げると学生のみなさんは母語も異なりますし、様々な文化的背景を持っています。学習歴、到達目標、興味分野も異なります。国籍、民族、宗教、思想、ジェンダーも様々ですし、いわゆる「健常者」もいれば身体や精神面で障害を持っている学生もいます。これまでの教育はこのような多様性をしっかり認識すること

なく、一律で一方向的な教育を行ってきた側面があると思います。みんなの様々な特性が学習の妨げになったり、困りや不安のもとになってしまうこともありました。UDLは、より柔軟で、学習者自身による能動的な学習を促し、「知識を活用し新たな学びに繋げることができる人」、「自信の学びの進捗をモニターし、方略的に学べる人」、「持続的かつ計画的に学べる人」、つまり「学びのエキスパート」を育てることを目的とします。すべての人にとって「完璧な授業」は存在しないと思いますが、少しでも多くの人々が「学びのエキスパート」になれるように私の授業ではUDLに基づいた授業改善を行っています。

UDLは、身体障害や発達障害などの様々な理由で学習に困難を感じているみなさんが少しでも楽な気持ちで学習できるようにするための手立てでもあります。障害が学習の妨

げになってはいけない、むしろその人の特性として認められるべきで、得意な方法で学びたいことが学べればいいのです。教員にできることは、学生のみなさんにとって一番いい学習方法を一緒に考え、その方法を用いて十分な学びが起こるようにすること、十分な能力が発揮できるようにすることだと思っています。「誰一人取り残さない教育」は、「劣っている」学生をもっと支援して「優れている」側に近づかせることではありません。**それぞれがそれぞれの方法でそれぞれの目標を達成できるようにすることが大事です。**そのようなインクルーシブな授業ではお互いに学び合い、共に成長することが可能になると私は信じています。そのために授業や学習方法はつねに柔軟である必要があります。私の授業では学習の内容を学生のみなさんに選ばせたり、聞く・読む・話す・書く四技能の活用幅を持たせて学生自身のスタイルで課題にアプローチ

できるような環境づくりをしています。また「やさしい日本語・やさしい英語」の使用、情報提示の簡略化・一本化などを行うことで学生のみなさんが少しでも安心して学べる環境を実現したいと思っています。

Q:先生の授業で、学生の学びのモチベーションを高めるために工夫されていることはありますか？

A:私の授業では、毎学期の初めに「マイ・ラーニングゴール」を設定します。もちろんコース全体の共通の到達目標は設けられているのですが、それに加えて自分自身の立てた目標、それを実現するための方略を教員と学生と一緒に考える時間を作っています。**マイ・ラーニングゴールは自らの興味と関係していることが多いので、自然と学習のモチベーションは高くなります。**韓国語4のクラスでは、APSとAPMで



化は表裏一体でもありますから、文化・社会的側面を理解することは語学においても非常に重要なことだと考えています。

Q: 去年の春 Semester からオンラインで授業が行われましたが、オンラインで授業を行う上で工夫されたことはありますか？

A: 私の授業では『授業ノート』と呼んでいるものを使っています。『授業ノート』は、授業中に学んだ内容や宿題などが書いてあるカスタマイズできる副教材のことです。文字の大きさやフォントを変えることもできるし、内容を整理したり、書き加えたり、参考になる文献やサイトのリンクを貼っておくこともできます。『授業ノート』は manaba にアップロードしています。オンライン授業になってから、「今日の宿題は何?」、「前回、どこまで進んだ?」のようなご

く普通の学生同士の会話もできなくなってしまいました。実はそういう何気ないやりとりで私たちは必要な情報を得たり、整理したり、再確認していたということが分かっています。『授業ノート』は、そういう情報を確実に、正確に伝えるための装置でもあります。学生同士もそうですが、教員と学生のあいだにもじっくり話すことができない状況になってしまいました。休み時間や授業が終わった後に少しだけ交わす何気ない会話がどれだけ大事だったか実感しています。一方で ZOOM はとても便利なアプリケーションで、時空間の制約が減りました。ちょっとした相談や授業に関する質問など、より気軽にできるようになったのではないかと思います。私は定期的に受講生のみなさんと ZOOM で話すようにしています。

扱う様々な分野のいろんな題材を使って語学力を高める授業を行っています。環境、イノベーション、観光、マーケティング、国際関係など、みなさんが普段、専門科目として勉強している分野から韓国の社会・文化に関する内容をピックアップして韓国語の学習にリンクさせます。教員によるレクチャーと学習者中心のアクティブラーニングを組み合わせることで質を高め、日本で韓国語を学ぶという点は、日常が韓国ではないという点において韓国で韓国語を学ぶのとは少し違う側面があります。買い物だったり、おしゃべりの時間だったり、役所に行って使う言葉、聞こえてくる言葉は韓国語ではないわけです。実際に学んだ言語を使用する場面が限られてきます。言語教育が日常とかけ離れていてはあまり効果がないと思っています。授業で身につけた韓国語能力がみなさんの普段やっていることに役に立ってほしい、そういう思いもあ

て、専門的な知識を用いて言語を学ぶ活動を行っています。

もう一つ、私の授業では「母語で調べる」アクティビティを行っています。例えば、韓国と北朝鮮のあいだにある問題がニュースになったとします。それについてベトナム人学生はベトナム語で、中国人学生は中国語で、ロシア人学生はロシア語で調べてきます。それから、調べた内容を韓国語に変えて授業で共有します。このアクティビティは言語の練習にもなるのですが、もう一つ、ある事象を世界の人々がどのように理解し、解釈しているのかが分かるようになるという狙いもあるのです。その理解や解釈によって使う言葉や文脈も変わってくるし、そのような言葉や文脈になるのにはその国・地域の文化や歴史が影響していることが多いのです。もちろん言語授業ですから言葉の勉強がメインになりますが、言語と文



Q:先生が授業内容を改善する時に、どのようなステップで改善されていますか？

A:まず、皆さんからの授業評価アンケートを必ず読むことです。特に、コメントとして書いてもらっているところはとりわけ熟読し、改善しようと思っています。専門家から助言を得ることもあります。UDLもそうですが、専門家の方にアドバイスを求めることもあります。また言語クラスは同言語内でチームプレイをしないといけない場面があります。私の場合は、韓国語教員のみなさんと定期的に話し合い、お互いの授業における改善点などについて学び合うこともあります。

Q:先生が教育をおこなう中で大切にしていることは何ですか？

A:大学は「考える人」を育てる機関であると

Q:授業を受ける学生に期待することは何ですか？

A:「将来、『いい仕事』に就くために勉強している、頑張っている」という感覚からいったん離れて、「何のために学んでいるのだろう」という問いについてじっくり考えてみてほしいと思います。答えはそれぞれ違っていいと思います。「やっぱり『いい仕事』に就くためだ」という答えだっていいと思います。しかし、何のために学んでいるのかも分からずに突き進むのはまずいのではないかなと思います。方向性を失ったり、期待していた結果が得られなかったり、それによって落ち込んだり、挫折することもあるのかも知れません。「学びの喜び」を一度でも経験してみたらもっと学びたいとなるのは自然な現象です。「喜び」があるのですから、楽しいものはもう一度経験したいですね。私たち教員もみなさんが少しでもそ

考えています。「考える人」とは、問題意識を持って、よく勉強し、多角的にアプローチし、自ら答えが出せる人です。それは社会規模の問題なのかも知れないし、自分自身の身の回りのことなのかも知れません。とにかく自分で考え、行動できる人を育てることが大事なのではないでしょうか。自分で考え、行動するためには物事を批判的に見る練習と豊富で幅広い知識が必要です。批判的に見るとは、誰かを「批判する」ということではありません。物事の背景、歴史、関係性をよく考えてその全貌をつかむ能力だと思います。それから見えてくるものの、関係性こそ「真理」と言えるものなのではないでしょうか。「真理」を追究すること、それが学問だし、「考える人」の素養であると考えています。

ういう経験ができるように頑張りますが、みなさんご自身も様々なことにチャレンジし、「学びの喜び」に期待して経験を積んでほしいと思います。

インタビューの感想

今回のJung Jonghee先生のインタビューを通じて、様々な文化的背景を持つ学生たちを理解・配慮するために本当に多くの工夫をしてくださっていることを知ることができました。その中でも、気軽に質問できるように考慮してくださっている先生の姿が一番印象的でした。

多様な分野の語彙と知識を得られるように授業を構成してくださっていることと、毎回の授業の内容をワードに整理し、学生たちが自らのノートを作れるようにしてくださっている先生の配慮のおかげで、学生たちが言語学習に興味を失わず勉強を続けられると思いました。

インタビューアー

名前：チェ ウンギョン
学部：APS, 環境・開発
出身国・地域：韓国
メッセージ：アンニョン（韓国語の挨拶）！ 私は環境開発学を専攻しているAPS 3年生のウンギョンです。様々な国の人とコミュニケーションを取ることが大好きです。私のポジティブなエネルギーで人々を幸せにしたいと思っています。APUでは、常に新しいことをするよう努力をして、今後もその挑戦を続けていきたいです。



「Q」とは

APU で素晴らしい授業を行っている先生方はたくさんいらっしゃいますが、先生方が授業中にどのような工夫をしているのか知ることが出来れば、他の先生の授業改善にも役立つ。そのために、インタビューをして授業の工夫を教えてください、ということで始めた取り組みです。この記事は、授業の「Quality=質」を高める、質を高めるための「Question=問」に答える、授業改善の「Queue=列」をなす、など、色々な意味を込めて「Q」と名付けました。先生方の授業の質向上の「Quest」に役立てられると幸いです。

